

西東京市 図書館だより

第63号

平成28年(2016年) 10月1日

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



「不思議な気持ち」
上向台小学校 五年

「利用者と紡ぐ つながる図書館」

本のある場所を通して人と人がつながっていくことを願うという試みが、人口一万人程の観光と農業の町、長野県小布施町で進行中です。町内の喫茶店、酒屋、ジャム屋などの店内に商売に関する本を並べてもらい、町じゅうを図書館にしていこうというもので、7年前に三角形の新図書館「まち図書テラス」が誕生して以来の取組です。その後も地元住民が、読んでほしい本を自宅の一角に並べはじめするなど、この試みが住民、観光客にも支持されて、その輪は今も増えているそうです。

西東京市で行っている人と人がつながっていく試みとして、成人サービスとYAサービスの企画をご紹介します。

8月より募集を始めた「心に残るおすすめの本」と題して、図書館と利用者、利用者を利用者のつながりをめざす、利用者参加型の展示です。一定期間、利用者が推薦する本を推薦者のコメントと一緒に展示し、貸出しするというものです。

YAサービスでは、年4回『CATCH』^{キャッチ}というミニコミ誌を発行しています。市内在住の中高生が参加して職員と共同編集を行い、原稿執筆も中高生の手によるものがほとんどです。イラストやカットも手作り。若い世代の利用者参加型企画です。

図書館を介して、さまざまなつながりができることを期待しています。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館 ☎421-4545へお問い合わせを

図書館と利用者で作る、新企画

「心に残るおすすめの本」開催中です

一冊の本を読み終えて、「この本の面白さ、誰かに教えたい！」そう思ったことはありませんか？

あるいは「今何か本を読みたいんだけど、何を読んでいいかわからない……」とお困りになったことはないでしょうか。

現在開催中の展示「心に残るおすすめの本」は、そんな思いに同時に応えられるものかもしれません。

普段は、図書館司書がテーマを決め、展示する本を選びます。展示は、図書館を利用するみなさんに新たな知識や興味の発見や楽しみを提供することを目的としています。いつもの書棚に置かれていたときにはなかなか手に取られないような本も、展示としてディスプレイすると、不思議と手に取られ、借りられていきます。

新しく始まった「心に残るおすすめの本」は、今までの図書館で行っていた展示とは少し趣向を異にしています。本を選ぶのは、図書館利用者のみなさんです。おすすめの本を選んでいただき、その理由と共に展示します。

おすすめしたい本がある方は、西東京市図書館にある応募用紙、また

は図書館HPから、おすすめの本や心に残る本、あの日読んで忘れられない本のタイトルなどと、こんなところが面白かった、あの場面が印象に残っているなど本一冊一冊に抱く、その人それぞれの思いをことばにして、応募していただき、図書館

や他のみなさんに教えてください。来館された際にはぜひ一度展示コーナーに足を運んでみてくださ

い。ここにはあなたが出会ったことのない本を、すてきな言葉で魅力を語ってくれる人がいます。

「心に残るおすすめの本」は、図書館や図書館資料と利用者をつなぐ場の一つです。またそれだけではなく、本を媒介として利用者同士をつなぐ場になればと思っ

利用者参加型企画展示

「心に残るおすすめの本」

まだまだ展示本募集中です！

募集：11月30日(水)迄

展示：12月28日(水)迄

開催：図書館全館

※詳しくは館内ポスター、HPをご覧ください。

『今月の本棚』からリニューアル

図書館情報紙



配布しています！

約十年にわたって、西東京市図書館の成人サービスマン担当(児童や青少年向けでない、一般書の収集や整理、事業を行う部門)では、その時の旬のテーマに沿った図書館員おすすめの本を選んでお伝えする月刊のリーフレット、『今月の本棚』を発行してきました。7月発行号から、形内容ともにリニューアルし『図書館情報紙 ちらつと』として生まれ変わりました。

約十年にわたって、西東京市図書館の成人サービスマン担当(児童や青少年向けでない、一般書の収集や整理、事業を行う部門)では、その時の旬のテーマに沿った図書館員おすすめの本を選んでお伝えする月刊のリーフレット、『今月の本棚』を発行してきました。7月発行号から、形内容ともにリニューアルし『図書館情報紙 ちらつと』として生まれ変わりました。

現在、第2号(9・10月号)を各図書館で配布しています。

もし、こんなことが知りたい、このテーマで特集を組んで欲しい、そんなご要望があれば図書館までお寄せください。

これまで紹介した本の情報を、図書館HPでより詳しくご覧いただけます。ご活用ください。

記念すべき第1号では、7、8月に行われていた全館統一展示「絢爛豪華―彩の海に溺れる―」の紹介と、第1号にちなんで「はじめての！」をテーマにさまざまな趣味や実益を兼ねた入門書を紹介しています。

「眠れる森の美本」と題して、西東京市図書館で今まで一度も借りら



マスコットキャラクター
「ちらつとちゃん」

図書館だより版

にんにん西東京

第14回「年中行事

いま・むかしその2」



今回は西東京市域でかつて行われていた、あるいは、現在も伝えられている行事の一部を紹介します。

八朔(はつさく)の節句

八朔とは、旧暦8月朔日(ついたち)のことですが、市域では9月1日に行われた畑の収穫を祝う農家の行事です。8月は畑仕事が忙しく、きゅうり、茄子、とうもろこしやキャベツなど取込みを終えた後、まんじゅうやうどんを作り祝いました。保谷では、嫁や婿が砂糖、菓子類、アジの開き、鱈などを買って里帰りしました。田無では、嫁が新麦を粉にして里へ持ち帰り、実家でうどんを作って嫁ぎ先に持たせる「粉ばつ」を「八朔」と同時期に行う家もありました。

十五夜

十五夜は、9月15日、十三夜は10月13日に行われ、どちらか一方の月見をしない片月見は忌まわれていました。月の見える場所に薄(すすき)(15本、13本或いは5本、3本)お神酒、団子、牡丹餅、柿、栗など丸い物を供えました。大麦の豊作を祝う十五夜、小

麦の豊作を祝う十三夜と言われ、その夜の月で来年の麦の出来を占うため「十三夜の月を見てから小麦の追い蒔きをしろ」と言われました。

田無神社の例大祭

13世紀(鎌倉期)には谷戸の宮山に鎮座していた尉殿大権現が、現在の地に遷宮された年に祭礼が行われた記録から、9月19日が例大祭の日とされています。明治34年(1901)からしばらくは田無小学校を休業日とし、生徒は羽織・袴で神社での式典に出席しました。お神楽が千歳村船橋(現世田谷区)から来て



「仮装行列のおとぎ列車」
田無町商店会主催
昭和28年(1953)8月1日

田無ばやし(市指定文化財)も賑やかに奏でられました。大正末頃まで芝居小屋がたち埼玉県二本木(現入間市)から呼んだ一座は評判でした。戦後は神輿の行列が見所となりました。現在例大祭は、10月の第二日曜日とその前日に行われています。

関東一の仮装大会

昭和初期から総持寺で開かれていた盆踊りは、戦後、仮装した人々が会場を盛り上げ、昭和24年(1949)には、最終日の8月1日に仮装コンクールが行われるようになりました。昭和27年(1952)「境新道の八百屋のシゲちゃん」(天野繁蔵さん)が一年がかりで仕立てた『桃太郎、鬼が島の鬼退治』を見る人々で会場は埋まりました。長い戦争で娯楽に飢えていた人々の喜びが一気に爆発します。

翌年から商業共同組合が主体となり10台を超える山車を出品し、青梅街道を全面通行止めにして約2kmのパレードを行いました。各新聞社の取材もあり人出は10万人とも言われました。

審査委員長の石黒敬七氏(随筆家)が、「これは凄いぞ、関東一の仮装大会だ。」と絶賛し、テレビでも紹介され広く知れ渡りました。徳川夢声、サトウハチロー氏なども審査委員を務めました。

商店主たちは本業をおいて、映画撮影所の道具さんや看板屋さんなど専門家の力を借りて大作を制作し『アリとキリギリスの物語』『シンデレラ姫』『ゴジラ』『白雪姫』などが優秀賞に輝きました。

歯車仕掛けの腕や足を動かし雄叫びを上げる体長12mのゴジラは、昭和30年(1955)、当時ブームとなっていた映画を彷彿とさせました。「ゴジラ田無に現れる」と新聞報道されると、町田町(当時)商工会連合会から貸出の要望があり、トラックにゴジラを積み4時間をかけて盆踊り会場まで運びました。

昭和36年(1961)、青梅街道の交通量増加により通行止めの許可が警察から下りず仮装大会は8回で中止となりました。

平成13年(2001)、田無商業協同組合により40年ぶりに復活しました。

〈第62号 お詫びと訂正〉
第13回「西東京市の地名②旧保谷地域から」記載事項について

上保谷「高塚」は庚申塚に由来するか、と記載しましたが、『尾州様御鷹場御定杭場所書上帳』(玉曆3年8月)に、「此所之異名鷹野塚と云」との表記があり、鷹場に由来する地名であるものでした。
お詫びして訂正いたします。

1 図書館とのかかわり

私は昭和一桁生まれの老人です。保谷生活五十三年になります。四年ほど前から散歩をかねて週の大半は図書館通いを続けております。学生時代、サラリーマン時代、退職後も途切れることなく英語の勉強をしています。「継続は力なり」をモットーにしています。

同氏はアベノミクスの有力な擁護者として知られています。日本人の常連としては小池百合子さんのコラム(日本の政治家で唯一人です)。テーマは国際問題、TPP問題、一昨年話題になったフランスの経済学者T.ピケティ氏の著書への論評等と多岐にわたって言及しています。日本のパチンコ資金と北朝鮮の核兵器開発の関係性についての論文は興味深く読みました。

図書館ではいつも「ジャパンタイムズ」に目を通し、特に社説、オピニオンのコラムを重点的に読みます。同誌には「ニューヨークタイムズ国際版」がオマケに付いており、情報の収集だけでなく英語の勉強にも役立てており一挙両得です。

私が二つの新聞で特に注目するコラムは先ず米国のエコノミストR.J.サミュエルソン氏が寄稿しているもので必ずコピーを取っています。同氏は三十年以上米国の有力新聞・雑誌に寄稿しており、テーマは米国を中心とした経済問題で、文章はシンプルかつ平易です。次に注目するコラムはノーベル賞受賞者のP.クルーグマン氏のものです。

利用者エッセイ

わたしと図書館
瀬在 實

2 図書館に期待すること

読書については政治・経済関係のものが多く、新刊書、ベストセラー本にはこだわりはなく、むしろ理論的、アカデミックな専門書を好んでいます。当図書館は非常に充実しております。

哲学不人気を反映して哲学書(古典書)が少ないような気がします。「哲学を軽蔑することこそ真に哲学することである」パスカルの言葉ですが示唆にとんだ言葉だと思います。

新町福祉会館図書サービス
予約申し込みできる冊数が
5冊から10冊に!

新町福祉会館の図書サービスでは、予約資料の受け取りや返却などができます。

10月1日から、資料の予約申し込みができる冊数が、これまでの5冊から10冊に増えました。便利になった図書サービスをぜひご利用ください。

予約方法

施設内に設置している利用者用検索機や図書館ホームページから予約することができます。

予約には図書館利用カード番号とパスワードが必要です。パスワードは、市内図書館カウンターで発行します。

アイメイト(盲導犬)を
ご存知ですか
講演会を通して

今年4月に「障害を理由とする差別の解消に関する法律」が施行されたのを機に、8月7日に小学生と保護者を対象に『私とアイメイト(盲導犬)との2人5脚生活』と題して講演会を実施しました。

講師に市内在住で視覚に障害をお持ちの江黒知子さんをお招きし、アイメイトとの日常生活や、アイメイトを見かけた時の注意点などをお話いただきました。参加してくれた子

ども達は講師のお話を、持参したノートに記録を取りながら熱心に聴いていました。質疑応答では、子ども達からたくさん質問が出ました。その熱意を感じた講師はひとつひとつ丁寧に分かりやすく答えてくださいました。

講演後アンケートをとったところ「本当の盲導犬と飼い主に会えて、うれしかったです。」「アイメイトと直接ふれ合っている所が見られたこと。障がい者本人の体験談や道具を見て、貴重な体験でした。」「体験型のセミナーで、親子共々楽しむことができました。」など、大好評でした。



編集後記

最近始まった新しい試みをいくつかご紹介しました。

みなさんの暮らしを豊かに、役立つものになると図書館を訪れる楽しみが増えるのではと期待しています。